

市民大学企画懇談会

日時 11月22日(金) 10:30~13:30

場所 鶴瀬公民館

出席者 15人

報告者 金田 光正

はじめに

コロナ禍で中断していた「市民大学企画懇談会」が久々に開催された。今回の「企画懇談会・懇親会」は現在理事会で行っている、来年度に向けて市民大学の開催講座や活動（イベント）等の企画について、正会員の方々のご意見やご要望を伺うこと。

同時にコロナ下で実施出来なかった会員同士の懇親・交流を行いたいとの趣旨で開催された。

今回は理事を含め15人の方が出席され、またオブザーバーとして、鶴瀬公民館土田宗孝館長、担当職員の杉本雄太郎さんも参加された。

金田理事の司会で、瀬戸理事長のあいさつ、出席者全員の自己紹介の後、用意されたお菓子を食べながら、そして昼食挟んで和やかなうちにも、活発な意見交換がなされ、会議は進められ予定されていた13時30分に公民館館長の挨拶、安藤副理事長の締めで閉会した。



司会 金田理事

当日の次第は次の通り。

- ・ 理事長あいさつ 瀬戸理事長
- ・ 自己紹介
- ・ 来年度や今後の講座企画にむけて(意見交換)
- ・ 昼食を食べながら懇親
- ・ 来年度の講座のイメージについて (瀬戸理事長)
- ・ 鶴瀬公民館長あいさつ
- ・ 閉会あいさつ 安藤副理事長





理事長あいさつ

◆自己紹介 ※一部紹介します。

理事長挨拶の後、自己紹介では全員が市民大学との関わりについて触れ、富士見市民大学3期(1980年)から参加され現在理事をされている加藤さんをはじめ、今年から受講生として参加されている木村さんまで様々な方々が参加しました。

文学講座に参加している宇津木さんは、毎回の講座参加と共に自宅に帰ってから講座資料を丁寧に読み返して復習をするなど積極的に参加されている様子が紹介されました。また作さんは、以前開催されていた自然塾や富士見検定から市民大学へ参加するようになり現在11年目、今は国際社会学講座やふじみの歴史講座に参加している。40代の頃から参加しているという桑名さんは、「市民大学は私の生活の一部になっている」と話され、今後も自分の生活の中で気づかなかったジャンルや視野を広げられる講座に期待したいと強調されました。

理事長の瀬戸さんからも、65歳から市民大学へ参加するようになって主に文学講座や文章講座を担当してきた。文章講座では参加者全員が作品を制作する内容となっていて、作品を見るとその人の人生が分かり、忘れることの出来ない講座となったと紹介されました。

◆来年度や今後の講座企画にむけて意見交換

※たくさんのご意見が交流されましたが主な点を紹介します。

- ・以前は、文学散歩や見学会なども行われていたが最近は無くなっている。大掛かりでなくても良いので是非復活してほしい。
- ・文学散歩や見学会は、コロナ禍もありこの間全く取り組めなかったが、今後検討していきたい。(理事長)

- ・落語や漢字のルーツを学べる講座があるといいですね。
- ・在日外国籍市民が年々増加している中で、異文化理解に繋がる学びもあっても良いのではないか。
- ・難漢字について学んでみたい。その意味やルーツを含めて。
- ・漢字のルーツなどは大東文化大学の研究者が比較的話せる方がいる。(理事長)
- ・現在86歳になるが、年々市民大学の内容の理解が難しくなっている。超高齢化の中で、もう少しわかりやすい講座もあつたらいいのではないか。
- ・現在、市民大学の開催は、鶴瀬公民館が主な会場となっている。身近な施設で開催してもらえると参加しやすい。
- ・人生100年時代と言われているので、市民大学ももっと生活に身近な施設を使って開催していく事も必要。かつては市内各公民館で1講座は開催された時期もあった。
- ・昨年参加しているが、この間見てきて富士見市民大学は衰退期に入っているのではないか。参加者や運営側も高齢化している。どのように考えていけばいいのか。
- ・時代状況という点もある。かつて60歳定年後は第2の人生といわれ地域社会へ参加する方も多かったが、今は60代や70代でも就労されている人も多い時代で、なかなか運営側に参加する成り手がいない現状もある。たま、今の市民大学の担い手も年々高齢化と参加人数の減少が進んでいる。そうしたなかで運営にも支障をきたいしているのが現状である。
- ・今の問題は、市民大学だけの問題ではないのではないかと。今、地域でも役員の成り手がいない、高齢化が進んでいるなどの課題がある。以前、町会の研修会で横浜市磯子自治会へ行ってきた。そこも今までは役員の成り手がなく高齢化が進んでいるところであったが、イベントでBBQを行ったところ子どもや若い世代が参加して、今では中学生ボランティアが積極的に運営にも参加している。こんな事例も参考になるのではないかと。
- ・今年度ここまでの講座を振り返ってみると、文学講座33人、国際社会学講座25人、行政と市民生活26人、富士見の歴史平均20人、サロン塾平均11人。公開講座は開講式の基調講演が71人、9月の異常気象・地球環境の未来の千草さんの講演が101人、11月の在宅医療・訪問診療についての講演が88人、12月の上野さんの講演250人を超える申し込み。と富士見市の中で、こうしたテーマでの講演会や講座を定期的に開催しているところは市民大学以外ないと言える。改めて富士見市民大学の存在が大変大きな役割を果たしていると実感している。
- ・富士見市民大学は、魅力的なテーマや講師を探すネットワークがあると思う。しかし、今講座や講演会を行う上で、会場準備や受付などの実務をやるスタッフが少ない。そこをどうやって増やしていくかが一番の問題ではないかと。ある意味、今危機的状況だ。

◆来年度の講座のイメージ

この後、理事長から来年度の講座のイメージについて報告され、鶴瀬公民館長による挨拶と安藤副理事長の閉会の言葉で会が閉じられました。

以上、本質的な問題も含め多様なご意見を出していただきました。参加者の皆さん大変ありがとうございました。(文責/金田)



瀬戸理事長（左）と公民館館長（右）

懇談会の様子

